

【最優秀賞】

川と女性

山梨県甲府市立北東中学校

二年 松村 知

六月のその日、髪を切ったわたしは自転車に乗った。すっきりとした気持ちで目的地を目指した。

甲府第一高校のすぐ隣を流れる相川はわたしのお気に入り場所だ。自転車を降り、階段に座ったわたしはその川の流れをじっと見ている。

速くもなく、おそくもない川の流れはわたしの心を落ち着かせてくれた。

後ろから犬の声が聞こえた。振り向くと犬の散歩をしている女性がいた。わたしは軽く会釈をし、また川の方を見つめた。

「そんなに川を見て楽しいの。」
しばらくすると、その女性がわたしにそう言った。わたしはこの川が好きなんですと答えその女性の方を向いた。

「こんなに汚くなった川がかい。」
わたしはその言葉に驚いた。きれいな川だと思っていたからだ。昔はきれいだったんですかとわたしは聞いていた。

「きれいだったよ。昔はね。小さい頃はよく遊んだもんさ。それが、今ではすっかりこれだよ。」

わたしは川を見回した。すごく汚いというわけではない。しかし、壊れたバイクが捨てられていたり、ごみなどが捨てられていた。今

まできれいだと思っていた川にゴミがあつて、わたしはなんだか悲しいようなさびしいような気持ちになった。それと同時に、きれいだった頃のこの川を見たいという思いがわたしの中にできた。

なぜ、川が汚れてしまったのだろうか。最近では、川、海、湖の環境問題をよく耳にする。

水質汚濁の原因は主に生活系と産業系に分かれる。生活系というと、家庭から出る生活雑排水となる。つまり、わたしたちは、自分たちの手で自分たちの使う水を汚しているのだ。

しかし、わたしたちが生活するにはどうしても水を使わなくてはならない。だからこそ、節水をして、無だをしないことが水を救うことにつながる。一人では小さくても世界中の人が協力すれば大きくなるのだから。

さて、水自体がきれいになったとしてもごみがあつたらどうだろう。まず、見た目が良くない。それは拾えばそれで解決する。

しかし、飲みかけのジュースの缶が捨てられていたらどうだろう。中身がこぼれ、また、水を汚す原因になるだろう。たった一つではたいしたことがないかもしれない。しかし、十個、百個、千個と増えていったら、取り返しがつかなくなる。

そこに住んでいる生き物にとっては、とんだ迷惑だ。わたしたちの食べる魚が汚い水で暮らしていたとする。それを食べたわたしたちにまで影響がでるかもしれない。結局はわたしたちがやったことはわたしたち人間に返ってくるのだ。

こう考えると自分もごみを捨ててしまったことがあつたりして反

省をする。今まであまり意識したことがなかったが、これから自分は絶対に捨てないと心から誓った。わたしにこのようなことを考えさせてくれた女性に感謝をしている。

「なんだかんだ言っても、この川の流れは人をいやしてくれるのかもね。」

と女性は言っていた。わたしはやっぱりこの川が好きだ。あれ以来行っていないので、また行ってみようと思う。